

◆客観的な指標の設定・公表及び成績評価の概要

- (1) 学生の履修科目の成績評価を表 I で点数化し、全科目の合計の平均点を算出する（100点満点で点数化）
- (2) 平均点をもとに成績分布図を作成する。

<表 I >

評価	点数
A	100
B	80
C	60
D	40
E	0

◆履修科目の成績評価

- (1) 成績評価は履修科目ごとに、評価する。
- (2) 成績評価は、単位認定テスト、確認テスト、出席率、授業態度、その他課題等によってなされる。
- (3) 評価 …… 成績評価は、A・B・C・D・Eの5段階とする。
- (4) 評価基準

評価	内 容	点 数
A	科目の理解度と授業態度の極めて優秀な者	100 ～ 85
B	科目の理解度と授業態度の優秀な者	84 ～ 70
C	科目の理解度と授業態度の良好な者	69 ～ 50
D	科目の理解度と授業態度がやや劣る者	49 ～ 30
E	科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく劣る者	29 ～ 0

- (5) 評価内容（100点満点として）

(1)試験	(2)出席	(3)授業態度	計
70点	20点	10点	100点

- ① 試験点については、筆記、実技試験、レポート、製作物等の評価点数に70%乗ずる。
- ② 授業態度については、各担当の講師の評価とする。

(6)成績評価表

前期、中期、後期の評価表を作成する。

(7)単位認定試験

- ・原則として、全科目、単位認定試験を実施する。
- ・年間行事日程表で示す単位認定試験期間以前に科目が終了する場合は、終了する時点で科目単位認定試験を実施する。(対象学生は必ず受けなくてはならない)
- ・2期以上に渡る科目は、各期で単位認定を行い、その都度前の期で行った単位評価と整合を行う。
- ・指定された単位認定試験を受験しなかった場合は、理由を問わず追試対象とする。
(但し、就職に関する試験・面接日と重なった場合は、その限りではない。)

(8)単位認定追試験

- ・追試対象者の点数は40点未満とし、追試料金が発生する。
- ・追試は2回までとし、それでも40点未満であれば、レポート提出などで最終的な成績を出す。
- ・1回目の追試の前に、課題を提出し、担当者の了承が出た段階で追試を受けることができる。
- ・各科目の出席率が85%未満の者は単位認定試験は受けられない。よって追試対象者となる。
ただし、科目時間数(30時間未満)によっては、出席率80%未満の者が対象となる場合がある。
- ・追試手続きは、単位認定追試申込書と受験料を添えて総務に各自で申請する。
- ・追試及び再追試の試験日は、各科目担当者が該当学生に日程を指示し、総務で申請した学生のみ受験することができる。よって、無申請の学生は、自動的に単位未取得となる。

(9)再試験について

- ・追試とは別に基準点を設けて、再試験を設定することが出来る。再試験料金は発生しない。
- ・再試験は、その学生に対して、もっと勉強してほしいという気持ちから行うものである。